

岩本繊維 株式会社

自動裁断機によるオーダーメイドウェアの多品種少量生産の強化

多品種少量生産体制を活かした極めて独自性の高い事業のオーダーメイドパジャマや小ロット業務用ウェアの製造工程自動化で納期短縮と生産量増大を図り、更なる競争力向上と高品質寝具ニーズの対応で事業拡大を目指す。

■ 代表者	岩本 悠資	■ 所在地	〒615-8002 京都市西京区桂上野中町76番地
■ 設 立	1973年3月26日	■ TEL/FAX	TEL. 075-392-5855 / FAX. 075-392-5856
■ 資本金	10,000千円	■ URL	https://www.iwamoto-senni.co.jp/
■ 従業員数	54人	■ E-mail	info@iwamoto-senni.co.jp
■ 業 種	繊維工業	■ 得意分野	寝具

補助事業の目的、取組のきっかけ

◆ 強みはオーダーメイド可能な多品種少量生産

一番の強みは1枚からオーダーメイド可能な多品種少量生産体制です。オーダーメイドのパジャマやシーツといったカバー寝具のほか、旅館のオリジナル館内着なども受注生産しています。

糸からつくるオリジナル生地も開発しており、扱う生地約90%はオリジナルのものです。生地から好みにあった寝具は、「ぐっすり眠れて疲れが取れる」、「着心地抜群」など非常に高い評価をいただいています。

◆ きっかけはお客様の声

補助事業のきっかけはパジャマを買うお客様の声でした。自社WEBサイトを通じて、高身長で合うサイズがない、好みの部分にゴムをいれてほしいといった生の声が寄せられるようになりました。

当社ではこれまでも、肌に優しい生地を使った自社デザインのものを販売していましたが、大量生産の既製品では満足できないお客様の取り込みに、商機を感じたのです。そこからオーダーメイドパジャマ「つくるパジャマ」をスタートさせました。

◆ 課題は増産対応

しかし、オーダーメイドパジャマとしてお客様のニーズに一つ一つ応えるには、一着ごとにカスタマイズされたパジャマを短納期生産できる体制の整備が不可欠でした。売上機会の損失もネックでしたが、それ以上に、お客様をお待たせすることによる満足度の低下が懸念事項となっていました。

工場スタッフからは反発もありましたが、前社長が「当社が生き残れる道はこれしかない」との思いで説得し、徐々に社内の気持ちがまとまっていきました。

◆ カバー寝具でも高まるニーズ

さらに近年、特殊なサイズや形状の寝具が増加し、それに合うシーツ・カバーのニーズが高まっていました。ところ

が、こうした特殊品のカバー類は製品数が少なく、寝具にこだわる人のニーズに応えられていないと感じていました。

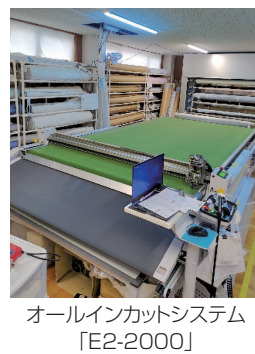
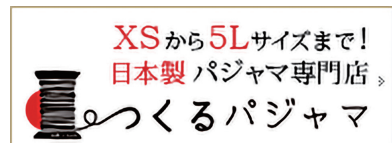


補助事業の取組内容

◆ オーダーメイドパジャマの裁断工程を効率化

補助事業ではまず、オーダーメイドパジャマの裁断工程の効率化を図りました。

導入した設備は、オールインワンカットシステム（自動裁断機「E2-2000」、パターンスキャナーと、CAD/CAMソフト）です。手作業だった裁断工程を機械化し、合わせて型紙も電子化することでオーダーメイドパジャマの生産能力を強化しました。同サイズのパジャマを何枚も自動裁断できるシステムは市場にありましたが、当社は一枚一枚異なるサイズのパジャマを自動裁断するシステム導入に拘りました。



◆ コロナ対応でオーダーメイド寝具に着手

オーダーメイドパジャマの裁断工程を機械化できたタイミングで、コロナ禍が発生し、カバー寝具でも自社販売チャネルの確保が喫緊の課題となりました。

そこで、カバー寝具でも高まるニーズに応えるかたちで、オーダーメイド寝具の直販ビジネス「つくるカバー」に着

企業概要

宿泊施設や家具店だけでなく、一般のお客様もお買い求めいただける、一人一人の「こんなほしかった！」を追求するオーダーメイド寝具をつくっています。企画・製造・販売が一体となった受注生産が可能で、きめ細かなお客様対応を心がけています。

主要製品

オーダーメイドのパジャマ、カバー、シーツ等。宿泊施設のオリジナル館内着といったウェア類、かけ布団や敷き布団、枕などの寝具とそのカバー類などが得意です。



ブランドコンセプト「つくるカバー」

主な保有設備

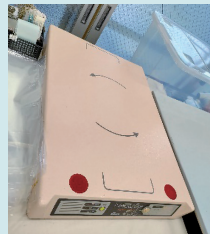
パターンスキャナー、芯貼り機、検針機、CAD/CAMシステム等



パターンスキャナー

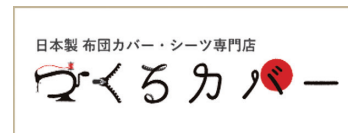


芯貼り機



検針機

手しました。1枚から受注生産を行うにはパジャマと同様に生産能力の強化が不可欠で、しかも大型で重い原反（ロール状の生地）を都度取替える作業は大変な負担です。そこでものづくり補助金を別枠で活用し、原反を自動でセットできる「原反スロット」を自社開発してシステム化したカバー製造用の自動裁断機「E4-2000」を導入しました。さらなる納期短縮だけでなく、作業の標準化にも取り組みました。



自社開発した原反スロット



オールインワンカットシステム「E4-2000」

補助事業の成果と今後の展開

◆ 裁断工程の効率化で大幅な増産へ

補助事業により、裁断工程の効率化に成功し、大幅な増産体制を整えることができました。

パジャマは、これまで職人が経験と勘で配置していた型紙を、パターンスキャナーで取り込んで裁断機に自動配置できるようになりました。裁断は1日60枚が限界でしたが、1日180枚まで対応できるようになりました。さらにCAD/CAMで受注データを管理できるため、データ入力に要していた時間も削減されました。1日30着が限界でしたが、100着近く製造できるようになりました。生産能力が3倍となっただけでなく、オーダーメイドであっても1週間で納品が可能となり、他社との差別化に繋がりました。カバー寝具については、1日裁断枚数80枚が200枚と、

主要取引先

半分以上が一般のお客様。事業所では家具・寝具専門店、宿泊施設。

補助事業による主な成果

	補助事業前	補助事業後
パターン作成・配置	1,500種類の型紙を職人が経験と勘で配置	スキャンされた型紙からソフトが自動で最適配置
裁断(パジャマ)	3～5年経験の職人3人で1日60枚	新人1人でも1日120枚
裁断(カバー寝具)	同上の職人3人で1日80枚	新人1人でも1日120枚
生産指図書(受注データ入力)	1日100件入力が限界	100件でも15分で入力可能

◆ 原価削減や標準化の効果も

補助事業により、原価も削減できました。型紙では避けることのできなかった生地ロスの発生が最小化でき、歩留りが向上しました。シーツ等のカバー寝具は使用する生地量も多いため、1枚当たり80円のロスとしても年間で最大約210万円が削減できる計算です。

また、機械化により作業が簡略化され、裁断工程が標準化されました。3～5年育成した職員3人でもパジャマなら60枚、カバー寝具なら80枚が1日の限度でしたが、現在は新人でも120枚裁断できます。

◆ 好循環を生むお客様の声

補助事業前は売上の約65%が卸売りでしたが、現在は約50%がWEB直販です。

WEB直販のユーザーレビューでは5つ星80%、4つ星10%とお客から大変高い評価をいただいています。さらにネットプロモータースコアは40%と、良い口コミを広げてくださるお客様がとても多い状態です。

いつも真摯に、時には泥臭くお客様の声と向き合ってきました。お客様の声を取り入れた商品が売れる、買ったお客様がほかの人に勧めてくださる、勧められたお客様が生の声を届けてくださるという好循環が生まれています。それがネット売上の結果につながっているのではないかと考えています。

今は、海外展開でこの好循環を生めないかと、インターネットでの仕かけづくりに取り組んでいます。